

大阪外国語大学グリークラブ

90th ANNIVERSARY CONCERT <since 1926>

創部 90 周年記念演奏会



2016年11月13日(日)

13:00=開場 13:30=開演

大阪国際交流センター大ホール

主催：大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団

後援：咲耶会（大阪外国語大学・大阪大学外国語学部同窓会）



昭和初期
創部間もない時の集合写真

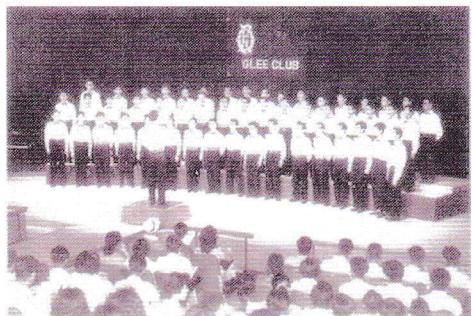
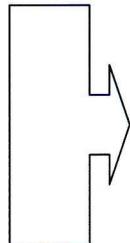
(大阪コーラルソサエティ 70年史より)

1947/11/12

大阪外国语学校創立 25周年記念
文化祭

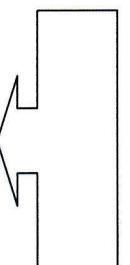
和田誠三郎指揮

シーベルト「落葉」ほか



1958/07/05
第 2 回定期演奏会

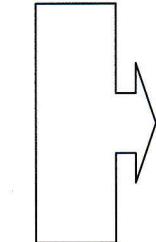
小谷松明弘指揮
聖歌、ポピュラー合唱曲、黒人靈歌、
日本合唱曲



1976/12/18

第 20 回定期演奏会
(創部 50 周年記念)

清水脩指揮 現役・OB 合同ステージ
「月光とピエロ」
最上川舟唄、大阪の子守唄



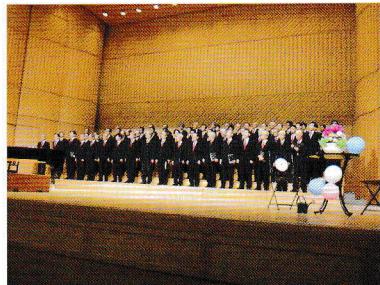
2006/04/30
創部 80 周年記念演奏会

第 1 ステージ
小貫岩夫指揮 「5つの日本民謡」

2014/05/18

「林誠祭」 2 日目
(林誠大阪音大教授退官記念)

林誠指揮 「月光とピエロ」



ご挨拶

大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団(大阪)代表 森 滋

本日は「大阪外国語大学グリークラブ創部 90 周年記念演奏会」にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。

大阪外国語学校時代の 1926 年(大正 15 年)に誕生した当グリークラブはことし創部90周年を迎えました。

創部当時、外語特有の発音とハーモニーの美しさが評判で、「外語のグリー」は関西の学生合唱の中心にいて、全国的にもその名を轟かせていました。

戦後復活した大阪外国語大学グリークラブは 1957 年(昭和 32 年)に第 1 回定期演奏会を開催以後、他大学グリークラブとの交流を含め活発に活動を続けましたが、1998 年(平成 10 年)、部員減少などから第 41 回をもって休部のやむなきにいたりました。20 世紀の終わりとともに幕を閉じたのは時代の流れだったのでしょうか。

しかし、私たち OB は休部後すぐさま、この輝かしい歴史と伝統を少しでも長く後世に伝えたい、と OB 合唱団を結成。東京と大阪、名古屋を拠点にすでに15年以上活動を続けており、この間、大阪大学との統合で 2007 年に大学自体が無くなつても、「Gaigo will shine tonight」(クラブソング)と歌い続けています。

そして、迎えた節目の記念演奏会を、大阪外国語大学発祥の地であり、思い出深い上八キャンパス跡地に建つここ大阪国際交流センターで開催できることは望外の喜びであります。

グリークラブの卒業生は約 500 名。国内のみならず広く海外の第1線で活躍中の仲間も多く、この記念演奏会には九州や北海道、中国の上海などからも駆けつけてくれています。

本日の演奏曲目は当グリークラブの大先輩で男声合唱界に大きな足跡を残した偉大な作曲家、清水脩氏の最高傑作「月光とピエロ」と多田武彦氏の名曲「柳河風俗詩」、外大得意のレパートリー「黒人靈歌」、そして「歴代指揮者メドレー」は現役時代に指揮者をつとめた8名が登場し「世界の愛唱歌」8 曲をそれぞれのお国言葉(原語)で歌いつづります。

なお、この演奏会は、グリークラブ顧問、OB合唱団名誉顧問として約40年間、私たちの活動を支え続けてくださった大阪外国語大学名誉教授・山口慶四郎先生が今年の1月にお亡くなりになり、その追悼演奏会でもあります。先生のご冥福を祈りながら精一杯、歌わせていただきます。どうぞごゆっくりお楽しみください。

大阪音楽大学名誉教授 林 誠
(大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団指揮者)

月の光の照る辻に~~~ 歌声が響き始める一瞬前、この団特有の深く濃密な瞬間がある。此れこそが、団員皆が作品を通じて作曲者と繋がっている証ではないだろうか。活発な活動を持続し、充実の度を上げるこの団の精神的源ともなつていよう。清水作品名曲中の名曲、深い音楽であるピエロ。100周年に向かうスタートになることを願って指揮をする。又、創部90周年記念のこの演奏会について、多田先生にも直接激励を頂いた。歴代の指揮者諸氏とともに、演奏会に対峙したいと思う。

この記念演奏会開催にあたり、作曲家の多田武彦先生から、お祝いのメッセージをいただきました。先生が師と仰ぐ清水脩氏の「月光とピエロ」とともに自作の「柳河風俗詩」が歌われると知つて、自ら「原稿を書かせていただく」と申し出があり、直筆のサイン入りで400字詰め原稿用紙3枚に綴られたメッセージが届きました。名曲が生まれたいきさつ、清水脩氏との交流ぶりが微笑ましく描かれており、団員一同、心温まる内容に感動しました。

この機会に、偉大な先輩の清水脩氏から過去、私たちの演奏会に寄せられたメッセージの中から、心に残る数編を抜粋して再録します。「外語グリーは青春そのものだった」と話されるグリー時代の楽しい思い出や男声合唱の魅力、そして後輩への願いが今も胸に熱く伝わってきます。

メッセージ

多田武彦

大阪外国語大学グリークラブの創部90周年、誠にお目出とうございます。

また、その栄ある記念演奏会に私の作品を取り上げて頂き、厚く御礼を申し上げます。

貴グリークラブご出身の大作曲家清水脩先生とは、私がまだ旧制京都大学の二回生の折、組曲「月光とピエロ」を歌わせて頂いたのを機に、先生からのご叱責ご薰陶を賜り、音楽の上のみならず、勤務先の仕事「専ら融資先の債権・とりわけ従業員やその家族を路頭に迷わせるような人員整理をしない」に傾注した際にも、秀い出した宗教家としての先生から頂いたご教導の数々や、寺社建築の奥義に関する多くのご研究成果を拝聴したことなど私の受けた恩義は実に深遠でありました。

折角の機会ですので、これらの事を、エピソード風に記述することを、お許し下さい。
「月光とピエロ」を歌つて間もなく、先生から、「作曲の基礎を教えるため月一回来阪して数人の生徒に教えているが、君も来るか」と言って頂き、喜んで参加しました。私が最後の順番だった日、先生から夕食に誘われ、その店の個室で食事の後、急に先生の表情が厳しくなり、「学習時の心得」が伝えられました。

1. 褒め言葉には嘘が多い。褒められて喜んでいるようでは、その瞬間に進歩は止まる。
2. 一方、君に対する非難・誹謗・罵詈雑言には真実の忠告があるから、これらを謙虚に受け止めろ。
3. 自作に惚れこんだり、自己宣伝をするな。良い作品を書けば、出版されていなくても、歌ってくれる人たちは、楽譜を探し、愛唱してくれる。
4. 所詮、君は、まだまだこの道での「ど素人」だ。
5. 当面は大正から昭和にかけて作られた日本近代抒情詩から「春夏秋冬・花鳥風月・喜怒哀樂・起承転結」が巧みに織り込まれている詩を選び、西洋音楽の作曲・指揮・演奏に必要な「構築性4項目(リズム・メロディー・ハーモニー・楽式論)」と「装飾性2項目(ディナーミク・フレージング)」と「声区の移動」に考慮して詩を決めろ。
6. これらについては、実践的教科書は無いので、例えば、カール・ベーム指揮、ウィーン交響楽団の名作・名演を最低百回聴け。スポーツと同様、50回から、様々な事柄が判ってくる。
7. 今から一ヶ月の間に習作としてのア・カペラ男声合唱を書いてこい。

との指示がありました。

こうして出来上がったのが、組曲「柳河風俗詩」です。先生は、「作曲技術は未熟だが、小学一年の時から培った日本の多くの古典芸術による組曲の構成力は見事だ。しかし褒め言葉には嘘があるぞ」と初めて微笑まれました。



清水脩先輩からのメッセージ

【外大グリーに寄す】

つい先日、上本町8丁目の校舎の前を通ったら、この中でくらした三年間が急によみがえってくるのを覚えた。それも、たいていはグリークラブの三年間の思い出であった。今にも二階の窓から合唱が聞こえてくるような気がした。あるいはその時間に、グリークラブの練習があったのかとも知れない。戦後の長いブランクのあとで、その歌声がぐんぐんとのびてゆくのを想像するだけでも楽しい。それはぼくの個人的な楽しみかもしれないが、かつては、関西の学生合唱の中心にいた「外語のグリー」なのだから、その復活のニュースをきくだけでもほっとするのが当たり前である。長井斉先生の教えをうけているときくと、ぼくの脳裏では、二十数年がすっとんで、そのころと今が直接つながるような思いがする。

外語特有の発音とハーモニーを早くきかせてください。

(1957年第1回定期演奏会)

【外語グリーと私】

当時を思い返してみると、フランス語部へはいるのが目的か、グリークラブへはいるのが目的か明らかでない。今日までの四十数年の歩みからすると、どうやらグリークラブは私の外語生活のすべてであったようだ。もっとも、フランス語を学んだことで、西洋音楽の果てしない森に足を踏み入れて、さほど迷わずすんだともいえる。いずれにしても、私の生涯の方向を決定したのはグリークラブの三年間であった。

その間、多くの先輩、友人、そして尊敬する幾人かの音楽家から、合唱の原理ともいべきものを学んだ。中でも、和田(誠三郎)、民秋(重太郎)の両先輩からは手取り足取り男声合唱の魅力を私にさとらせて下さった。そして私を作曲家にした根底的な原動力は、長井斉先生の存在であった。直接間接に、長井先生から受けたほどの感化を誰からも受けなかった。

私という音楽家の小さな合唱の歴史の培養素として常に外語グリーの三年間があったとすれば、グリー50周年演奏会の今夜は、外語グリーにとって記念すべき日であるのはもちろんながら、私にとつても忘れぬ夜となるであろうと思う。

今夜、外語グリーの歴史をつづる多くの人たちが一堂に集まり、外語グリーを愛してくださる方々とともに、男声合唱を満喫することができる。その喜びはなにものにもたとえようがない。

心ゆくばかり、歌いぬき、次の50年への歩みを踏み出し、百年目へ向かって歌い続けようではないか。私にはその日を迎える可能性はないであろうが、外語グリーメンの一人として、その時に書かれるであろう百年史に名だけでも留めておかれるのを切に切に望んでいる。

(1976年第20回定期演奏会=創部50周年記念)

【半世紀の伝統が息づく】

外大グリーの歴史は古い。その伝統も深い。5年前に私が出かけた際、全く昔のままだなあの思いを深くした。外語カラーとでもいるべきものが、根深く巣くっているのを感じて、驚いたのを思い出している。

私が外語にいたのは昭和初期であったからもう半世紀も前になる。その間、今まで戦争などの激しい動乱の時期があり、グリーも一時はみじめな状態に陥った。それでいて昔のカラーが残っているというのは、考えてみれば不思議でさえある。

(1981年第25回定期演奏会)

プログラム

Gaigo Will Shine Tonight

Varsity

大阪外国語大学学歌

ステージ I 黒人靈歌 指揮 松岡一仁（団内指揮者、昭和46年卒）

Didn't My Lord Deliver Daniel?

編曲 福永陽一郎

Go Down Moses

編曲 福永陽一郎

The Battle of Jericho

編曲 Marshall Bartholomew

Ride the Chariot

編曲 福永陽一郎

Soon Ah Will Be Done

編曲 William L. Dawson

ステージ II 世界の愛唱歌（歴代指揮者メドレー）

ともしび（ロシア）

作詞 M. Isakovsky

Finlandia hymni（フィンランド）

作詞 V. A. Koskenniemi

Ständchen（ドイツ）

作詞 Wolff

Freie Kunst（ドイツ）

作詞 L. Uhland

Shenandoah（アメリカ）

アメリカ民謡

Annie Laurie（スコットランド）

作詞 W. Douglas

Bengawan Solo（インドネシア）

作詞・作曲 Gesang Martohartono

U Boj（クロアチア）

作詞 F. Morkovic

指揮 山田 道教（平成7年卒）

作曲 不詳

指揮 坂居 孝二（昭和62年卒）

作曲 J. Sibelius

指揮 小林 卓郎（昭和60年卒）

作曲 A. E. Marschner

指揮 中津 孝司（昭和59年卒）

作曲 J. H. Stundz

指揮 石原 守（昭和57年卒）

編曲 Marshall Bartholomew

指揮 北村 照夫（昭和57年卒）

作曲 J. D. Scott

指揮 池田 民樹（昭和50年卒）

指揮 西村 信勝（昭和42年卒）

作曲 L. p. Zajc

（休憩）

ステージ III 男声合唱組曲 「柳河風俗詩」 指揮 林 誠
作詞 北原 白秋 作曲 多田 武彦

1. 柳河
(もうし、もうし、柳河じや、……)
2. 紺屋のおろく
(にくいあん畜生は紺屋のおろく……)
3. かきつばた
(柳河の 古きながれのかきつばた……)
4. 梅雨の晴れ間
(廻せ、廻せ、水ぐるま……)

ステージ IV 男声合唱組曲 「月光とピエロ」 指揮 林 誠
作詞 堀口 大學 作曲 清水 僕

1. 月夜
(月の光の照る辻に……)
2. 秋のピエロ
(泣き笑いしてわがピエロ……)
3. ピエロ
(ピエロの白さ！ 身のつらさ！……)
4. ピエロの嘆き
(かなしからずや 身はピエロ……)
5. 月光とピエロとピエレットの唐草模様
(月の光に照らされて……)

曲目解説

ステージ I 黒人靈歌

17～19世紀、新大陸の開拓の為に、多くの黒人たちが、アフリカ各地から奴隸としてアメリカに強制移住させられました。彼らの生活は、救いのない惨めなものでしたが、虐げられた奴隸制度の中で、新しく覚えた讃美歌や聖書に勇気づけられ、ひたすら神の救いを求めて、天国へ行けることを願い、そうすることによって現実の苦しみから逃れようとしたのです。一日の苦役を終え、夜遅くに仲間たちと秘密裡に集まり、神に祈り、歌いあって切迫した日々からの解放、人間としての真の自由を求めたのでした。

彼らによって歌われた祈りの歌、魂の歌が黒人靈歌なのです。リズムは彼ら独特のものですが、歌の内容には自然に対する畏れから来た祈りに、白人たちから教えられたキリスト教信仰が影響して、信仰生活を歌ったものが多いようです。もちろん伴奏楽器もなく、楽譜があつた訳でもありませんので、これらの曲は、口移しで伝えられ、1850年ごろから広く人々に知られるようになり、1880年ごろに初めて採譜されたものと思われます。現在、およそ450～500曲が黒人靈歌として知られていますが、その中から、本日は下記の5曲を選んでみました。

Didn't my Lord deliver Daniel ?

主はダニエルを獅子の檻から、ヨナを鯨の腹からお救い下さった ヘブライの子らを火の高炉から救い出されたのだから、どうして万人を救わないことがあろうか？

Go down Moses

エジプトでヘブライ人として生まれたモーゼは、神からの使命を受けた「行け、モーゼよ！ エジプトの地に下り立ち、ファラオに告げよ 圧政に苦しむ我が民を開放せよと」

The Battle of Jericho

エジプトを脱出したモーゼの指示により、約束の地カナンへ向けて、ヨシュアは突き進んだ 大きく立ちはだかる ジェリコの砦に槍を手に進軍したヨシュアは叫んだ「角笛を吹き鳴らせ！ トランペットを響かせよ！ 戦いは我が手中にあり」 ヨシュアは命じた「叫べ！」 するとジェリコの壁は音を立てて崩れ落ちた

Ride the Chariot

わが主よ、審判の日の準備がもうすぐできます 明日の朝、私はあなたに会う為に、馬車に乗って飛んでいきます

Soon Ah Will Be Done

もうすぐこの世の苦しみは終わる 神の御許へ帰るのだ 母さんに会いたい
もうすぐ悲しむ日々は終わるのだ 神の御許へ帰るのだ 主のもとへ行きたい

ステージ II 世界の愛唱歌

大阪外国語大学グリークラブが今年創部 90 周年を迎えるに当たり、その歴史の一部を、皆様方にご覧頂こうとの思いから企画いたしましたステージです。昭和 42 年卒業から平成 7 年卒業までの、計 8 名の歴代指揮者が登場いたします。それぞれの現役時代にグリークラブの活動を中心メンバーとして引っ張って来てくれた OB であります。我々グリーメンが学生時代から口ずさんで来ました「世界の愛唱歌」より 8 曲を選んでお届け致します。

ともしび（ロシア）

1942 年にイサコーフスキイの詩に基づいて作られた曲で、ソ連邦時代に流行した歌曲。第 2 次世界大戦中のことで、前線に赴く若者とそれを見送る乙女との情景を描いている。

Finlandia hymni（フィンランド）

独立前のフィンランドがロシア化政策の厳しい締め付けの中にあった 1899 年に、初めて演奏されたシベリウス作曲の「目覚めるフィンランド」を原曲として、1941 年、フィンランドが対ソ戦争の最中に、愛国的な歌詞をつけてアカペラの合唱曲として歌われ、第二の国歌とも言われているのが、このフィンランド賛歌です。「我が祖国フィンランドよ、見よ、お前の夜明けだ 他國の圧政にも屈しなかった自分の頭を、高々と上げよ お前の朝が始まるのだ」と歌います。

Ständchen（ドイツ）

この曲は、Freie Kunst, U Boj 同様、戦前から多くの合唱団に歌い継がれてきた愛唱歌です。「何故そんなに遠くにいるのか！ 私の愛しい人よ 星が優しく輝いている 月はもう沈もうとしている おやすみなさい 私の愛しい人よ」と恋人同士の別離の悲しみを歌います。

Freie Kunst（ドイツ）

この曲は、19 世紀前半に、J.H.Stundz によって作曲され、自由な芸術・青春を讃え、恋を歌い、正義に血潮がたぎると言った内容の学生歌として頻繁に歌われ、日本では男声合唱曲の愛唱歌として大学の合唱団を中心に、時代を超えて歌い継がれております。「ドイツの詩人の森で歌を与えられし者よ、歌え！ それは喜び、それは人生だ 全ての木々の枝に歌が反響した時には……」と高らかに歌います。

Shenandoah（アメリカ）

この曲は、19 世紀初頭から歌われているアメリカ民謡で、西部へ渡った人（船乗り）が故郷バージニア州のシェナンドーの川や谷を懐かしんで歌ったとも、移住政策によって故郷を去りミシシッピー川の西側に移らざるを得なくなったインディアンたちの過酷で厳しい移住の実情を歌ったものとの異説もあります。「おおシェナンドー、お前に会いたい お前のもとを去ってはいるが 流れゆく河よ お前を忘れたりしない 広いミズーリ河を横ぎり 我々はお前から遠く離れていく」

Annie Laurie（スコットランド）

マックスウェルトン家の令嬢アニーローリーと愛し合った詩人ダグラスだったが、異なる氏族間の争いの為、彼女との結婚が叶うことはなかった。アニーは政略結婚させられてしまったが、残ったダグラスは、彼女への熱い思いを一篇の詩に託した。その詩に約 1 世紀を経て 1838 年にスコット夫人がメロディーをつけたのが、この曲です。その後、「スコットランド民謡」として世界中で愛唱されることになったものです。

Bengawan Solo（インドネシア）

インドネシアの歌としては、恐らく日本で最も知られた曲でしょう。当地の伝統的大衆音楽クロンチョンの演者 Gesang が 1940 年に作詩作曲したものです。戦争中に日本兵たちの間でも広く歌われ、戦後は帰還兵により、日本でも広まり、日本語訳も発表されたこともあり、大ヒット曲となりました。古くからの謂れを秘めたソロ川の、多くの山々に囲まれた水源から海に注ぐまでのゆったりした情景と、商人が舟で行き来する様子を描写しています。

U Boj（クロアチア）

この曲は、1566 年、ウィーン攻略を目指すオスマントルコ軍 3 万人に包囲されたクロアチアのシゲット城主ズリーンスキイが選りすぐりの決死隊を率いて、祖国の不滅を信じて敵軍に切り込んで行く情景を歌ったもの。決死隊は全員戦死したものの、この間にウィーンからの援軍が到着し、クロアチアは侵略を免れた。「戦いへ、戦いへ！ 剣を抜け、兄弟よ 我らの死に様を敵に知らしめよ 我が古き故郷よ さらば、そして無事であれ 故郷の為に死す喜びよ 敵に向かえ！ 必ず打ち負かせ！」

ステージ III 男声合唱組曲 「柳河風俗詩」

”もうし、もうし、柳河じや、柳河じや”で始まるこの曲は、男声合唱を経験した者なら必ず聴いたことがある、歌ったことがある、男声合唱のバイブル的な組曲です。多田武彦先生のデビュー作でありながら、男声合唱の演奏会にはなくてはならないと言っても過言ではない、多田先生の作品の広がりを十分に感じさせる素晴らしい組曲あります。(この曲が出来上がった背景については、多田先生から頂いた「メッセージ」に詳しく書かれております。)

この組曲の舞台となる柳河(福岡市柳川市)は、作詞者の北原白秋が生まれ育った地である。白秋は、文学の道に進むべく、半ば家出同然の状態で上京した。そして白秋の第2作目として書き上げた「思ひ出」の中に、この「柳河風俗詩」が収録されている。「私の郷里柳河は水郷である。さうして静かな廃市の一つである。」と「思ひ出」の中で柳河の街を表現している。その柳河の旅は「柳河」によって始まっていく。馭者を案内人として柳河の街の中へと入って行く。廃れた遊女屋から柳河の街の様子をイメージさせている。白秋の少年時代の倒錯した心理を描いたものが「紺屋のおろく」である。女性に対する気持ちをうまく整理することができず、”にくい”と表現している。「かきつばた」では柳河のほとりに咲いているかきつばたの花を遊女屋の女性に例えて、”夜は萎れて…泣きあかす…”と表現し、もの悲しく逃げられない侘しい気持ちを感じさせる。「梅雨の晴れ間」は柳河の人々の数少ない楽しみの一つである、旅役者による田舎歌舞伎を題材としている。舞台になるニラ畑に溜まった水を、役者自ら水車を廻して、”くみ出せ、くみ出せ…”水郷柳河を力強く、楽しく歌い上げている。

ステージ IV 男声合唱組曲 「月光とピエロ」

「月光とピエロ」は、詩を読んでいただければわかるように、敗戦の混乱で人々は明日の食料を求めてさまよい、絶望のふちに立っていた当時の人々に、意外の共感をよんだ。

深い悩み、遂げられぬ恋、そして耐え難い絶望感。ピエロはそれでも、異様な衣装に身を包み、真白く顔を塗りつぶし、こつけいな身振りと笑顔をつくり、舞台に立たなければならない。ピエロならずとも、人間はいつの時代でもこのような悲しい一面を持っているのではないか。ことに青年のある時代にはこのような絶望感におそれないものはないのではなかろうか。この男声合唱組曲が発表時から今日に至るまで、高校合唱団や大学合唱団、あるいは若い男性のグループの間で強い共感を持って迎えられ、歌われているのは、その故であろうと思っている。

五つの曲は、緩急の配合を考えて組み合わせたのはいうまでもない。しかし、この組曲では高いHからバスのEsまで、男声合唱としてはかなり広い音域を持っているので、通して演奏するにはかなりの力量が必要である。ハーモニーはごく単純ではあるが、重厚なもの、軽快なもの、明るいもの、暗いものという風に色彩的なハーモニーを実現しなければならない。

(LPレコード 日本コロンビア OS-10060-N 「現代日本の音楽 11」 作曲者の言葉)

90年の歩み

(創部から終戦まで)

グリークラブの誕生は大正15年(1926年)4月である。部員も20数名集まり、片山謙二(F3)、民秋重太郎(IP5)が指導するに及んで急速に上達、その年6月19日にはマンドリンクラブ、ヴァイオリン部と組んで、第1回公開音楽会を講堂で開いている。その後、大阪音楽学校の長井斎氏を招いて指導を受けるようになり、練習の成果を春秋、講堂で開く音楽会で内外に披露してきた。やがてグリーだけでなく、マンドリン、ヴァイオリン、ハーモニカの各部との合同音楽会を開く事が恒例になり、聴衆も増えてきたので、昭和9年秋からは会場を大阪ガスビルに移して開催するほど盛況を呈するに至った。

グリークラブが生まれて間もなくの昭和2年11月26日、宝塚大劇場で宝塚音楽協会主催の第1回合唱競演会、Music Olympic Game of Chorusが開かれた。民秋重太郎率いる外語グリー25名は、ウイリアムの「ラーボード・ウォッチ」とドボルザークの「新世界より」から「故郷へ」の2曲を歌った。この内「ラーボード・ウォッチ」はコンクールに先立ち11月3日、前年完成の朝日会館で開かれた第1回明治節制定記念音楽会で一度歌った曲であり、「故郷へ」については、長井斎氏が「ドボルザークの新世界よりゴーイングホームをおそらく初演した」(昭和23年3月『合唱の友』創刊号)と記している。

審査の結果、外語グリーは3位入選、学生団体では1位であった。部創設から日浅くして関西学生コーラスの古豪をおさえての栄誉にグリーの面々は「ステージ上に燐たる優勝杯を手に、しばし狂喜した」と言う事である。民秋重太郎や清水脩(F8)といった名指揮者を得て、外語グリーの評判はとみに高まったが、専門家の印象はどうであったか。昭和6年1月16日に開かれた第1回関西学生合唱連盟音楽大会について、19日付けの新聞紙上で新賀郷夫は次のように批評している。

「9団体をABCの3クラスに分類したい。各方面から観察して比較的難がなく、かなり美しくまとまっていたのをAクラスとすれば、これに属するものは、関西学院、大阪外語、大阪医大、同志社グリークラブの4団体。Aクラスに属せしめた4団体は、いずれも十分練習は出来ていたが、エクスプレッションで傑出していたのは大阪医大で、一番美しいハーモニーを示したのは大阪外語であった…」

ハーモニーが安定して美しかったのは長井斎氏の指導の結果であり、外語グリークラブの伝統ともなった。そして関西学生合唱連盟音楽会には毎年連続して出場、JOBKのラジオ放送「学生青年の音楽」にも出演、部員も最盛期には50名の多きを数えた。

昭和13年11月の関西学生合唱連盟第9回音楽会で、滝廉太郎の「荒城の月」、メンデルスゾーンの「美しき死」を歌い優勝、指揮者は上田彰夫(D15)、メンバーは第1テノール11名、第2テノール9名、バリトン13名、バス11名であった。

記録によると、「今宵外語は輝かん」GAIGO Will Shine Tonightが登場したのは、昭和4年6月のマンドリン部との合同演奏会が最初で、以来、春秋の校内合唱会では必ずこの曲から始まるのを常としてきた。しかし昭和13年秋季合同演奏会で歌ったのを最後に、公開でのプログラムから消え去る。代わって、「海ゆかば」「太平洋行進曲」「愛国行進曲」「紀元2600年奉祝歌」などの曲目が増えていった。(大阪外国語大学70年史より転載)

(注:“Gaigo Will Shine Tonight”は戦後復活したグリークラブで歌われるようになり、現在も演奏会は必ずこの曲から始まります。)

(戦後から休部まで)

第2次大戦後、大阪外国語大学グリークラブとして復活し、平和な時代を迎えて活発な活動を始めますが、大学紛争、バブル崩壊など激動の時代の中で、1998年休部やむなきに至ります。この間の活動状況は、下記の定期演奏会のプログラムからご覧頂けます。

第1回 1957年7月6日

大阪ガスビルホール

黒人靈歌(4曲)、シャンソン ソロ(岡本恵一)、組曲「月光とピエロ」、スペイン組曲「アンダルシア」、ロバート・ショウ合唱アルバム(4曲)、ロシア民謡(4曲)

第2回 1958年7月5日

ABCホール

聖歌(4曲)、(賛助)外大弦楽四重奏団、黒人靈歌(4曲)、ポピュラー合唱曲(5曲)、(賛助)エヴァーカール、日本合唱曲「毛錢の三つの詩」など

- 第3回 1959年7月4日 産経会館
聖歌(4曲)、日本合唱曲「三つの俗歌」など、(賛助)バイオリン ソロ(志水英彦)、
黒人靈歌(4曲)、ロシア民謡、「枯れ木と太陽の歌」
- 第4回 1960年7月2日 産経会館
黒人靈歌(4曲)、ロシア民謡、川を歌う(4曲)、組曲「雪と花火」、
ポピュラーソング(4曲)、組曲「蛙の歌」
- 第5回 1961年6月19日 産経会館
宗教曲、「男声合唱のための四つの抒情詩」(辻啓一作曲)、黒人靈歌(5曲)、
ロシア民謡(4曲)、(賛助)ハープシコード(A.ファリシー先生)、組曲「月光とピエロ」
- 1962年6月9日 産経会館
第1回大阪四大学交歓演奏会(阪大、市大、府大、外大) 大阪毎日ホール
1985年で第19回を数えています。(19回を以って中断、現在に至る。)
- 第6回 1962年7月7日 産経会館
マドリガル(4曲)、黒人靈歌(4曲)、バスク合唱曲(4曲)、ロシア民謡(4曲)、
歌とギター(A.ファリシー先生)、清水脩作品集
- 第7回 1963年7月6日 サンケイホール
フォスター歌曲集(4曲)、(賛助)和歌山大学マンドリンクラブ、
「男声合唱のためのアイヌのウポポ」、ロシア民謡(4曲)、黒人靈歌(5曲)
- 第8回 1964年12月4日 サンケイホール
ドイツ民謡(5曲)、組曲「富士山」、組曲「山に祈る」、スペイン民謡(6曲)、
黒人靈歌(5曲)
- 第9回 1965年11月30日 サンケイホール
ロシア民謡(5曲)、組曲「月光とピエロ」、組曲「枯れ木と太陽の歌」、
ポピュラーカラオケ(4曲)、黒人靈歌(5曲)
- 第10回 1966年12月17日 サンケイホール
ヨーロッパ民謡(5曲)、組曲「人間の歌」、現代男声合唱曲(3曲)、黒人靈歌(9曲)
- 第11回 1967年12月5日 サンケイホール
ロシア民謡(5曲)、日本民謡(5曲)、黒人靈歌(7曲)、現代男声合唱曲(3曲)、
組曲「五つの学生の歌」
- 第12回 1968年12月3日 サンケイホール
「Sea Shanties」、組曲「ぼくたちの挨拶」、古典イタリア歌曲集(4曲)、黒人靈歌(11曲)
- 第13回 1969年12月12日 府立青少年会館
オペラ合唱曲集、組曲「中原中也詩集」、「Sea Shanties」、黒人靈歌(8曲)
- 第14回 1970年12月5日 サンケイホール
ドイツミサ、「Goin' Home」、黒人靈歌(8曲)、組曲「薔薇の散策」、組曲「雨」
- 第15回 1971年12月17日 府立青少年会館
組曲「朔太郎の四つの詩」、黒人靈歌(一部6曲、二部7曲)、組曲「人間の歌」
- 第16回 1972年12月7日 府立青少年会館
組曲「我が歳月」、山田耕筰作品集(6曲)、メンデルスゾーン男声合唱曲集(5曲)、
黒人靈歌(7曲)
- 第17回 1973年12月7日 府立青少年会館
組曲「父のいる庭」、フォスター歌曲集(8曲)、「五つの日本民謡」、黒人靈歌(8曲)
- 第18回 1974年12月20日 府立青少年会館
組曲「阿波」、組曲「中勘助の詩から」、(賛助)ラバーズ・アンサンブル、黒人靈歌(5曲)
- 第19回 1975年12月19日 府立青少年会館
組曲「雪明りの路」、組曲「薔薇のあしおと」、黒人靈歌(5曲)、ビートルズ・アーベル(5曲)
- 第20回 1976年12月18日 府立青少年会館 (創部50周年記念演奏会)
ロシア民謡(5曲)、黒人靈歌、組曲「中原中也の詩から」、組曲「月光とピエロ」(清水脩指揮、
OB合同演奏)
- 第21回 1977年12月13日 府立青少年会館
黒人靈歌(6曲)、組曲「山に祈る」、「Sea Shanties」(6曲)、組曲「雨」
- 第22回 1978年12月9日 東大阪市民会館
古典イタリア歌曲、組曲「観音」、「五つの日本民謡」、黒人靈歌

- 第23回 1979年12月6日 府立青少年会館
組曲「柳河風俗詩」、VIVA! WESTERN!、シーベルト歌曲集より、黒人靈歌(6曲)
- 第24回 1980年12月12日 府立青少年会館
世界の歌声、清水脩作品集より、ミュージカル「南太平洋」より、黒人靈歌(7曲)
- 第25回 1981年12月11日 府立青少年会館
「Sea Shanties」より、組曲「月光とピエロ」、黒人靈歌(10曲)
1982年9月11日第1回東西外国語大学交歓演奏会(森之宮ピロティホール)1995年まで開催された。
- 第26回 1982年12月6日 府立青少年会館
組曲「雨」、組曲「水のいのち」、組曲「子供の一年」、愛唱歌より(OB合同演奏)、黒人靈歌(6曲)
- 第27回 1983年12月22日 府立青少年会館
メンデルスゾーン男声合唱曲集、わがふるき日のうた、ゆうやけの歌、黒人靈歌(7曲)
- 第28回 1984年12月14日 森之宮ピロティホール
組曲「柳河風俗詩」、組曲「富士山の詩」、世界の愛唱歌、黒人靈歌(8曲、前半OB合同演奏)
- 第29回 1985年12月23日 吹田文化会館
マドリガーレ、世界の歌、三つの小笠原新調、三つの俗歌、黒人靈歌(9曲)
- 第30回 1987年1月11日 府立労働センター大ホール(創部60周年記念演奏会)
組曲「山に祈る」、「Sea Shanties」、組曲「月光とピエロ」(林誠指揮、OB合同演奏)、黒人靈歌
- 第31回 1987年12月14日 吹田文化会館
組曲「アイヌのウポポ」、黒人靈歌、他
- 第32回 1988年12月1日 森之宮ピロティホール
ロシア民謡、組曲「雪明りの路」、月下の一群、黒人靈歌
- 第33回 1989年12月18日 大阪国際交流センター
マドリガーレ、リーダーシャツ、「緑深い故郷の村で」、黒人靈歌
- 第34回 1990年12月4日 吹田文化会館
組曲「雨」、「やさしい魚」、Sea Shanties、黒人靈歌
- 第35回 1992年1月12日 吹田文化会館
組曲「柳河風俗詩」、ロバート・ショウ集、組曲「月光とピエロ」(林誠指揮、OB合同演奏)、黒人靈歌
- 第36回 1992年12月10日 箕面市メイプルホール大ホール
「日本民謡」(清水脩作曲)、「ヴェニス生誕」、黒人靈歌
- 第37回 1993年12月11日 箕面市文化センター
「若しもかの星に」、黒人靈歌、他
- 第38回 1994年11月26日 箕面市メイプルホール大ホール
(混声合唱団TEMPESTと合同演奏会) 黒人靈歌、合同演奏「遙かなものを」
- 第39回 1995年12月9日 箕面市文化センター
組曲「三つの俗歌」、黒人靈歌、他
- 第40回 1997年1月12日 フェスティバル・リサイタルホール(創部70周年記念演奏会)
「五つのスロヴァキア民謡」、黒人靈歌、組曲「月光とピエロ」(林誠指揮、OB合同演奏)
- 第41回 1998年1月11日 クレオ大阪西
「グリークラブ愛唱歌から」、「海鳥の詩」(林誠指揮、OB合同演奏)
部員2名のみとなり、OBが集まって開催した。以後現役グリークラブは休部となる。

(大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団として)

1998年に東京で、2001年には大阪でも、外大グリークラブの伝統の灯を消してはならじと、OB数名が集まりOB合唱団を結成。東京では、2002年に二期会の小貫岩夫氏を指導者に迎え、大阪では、2003年に学生時代からヴァイオイストレーナーとしてご指導いただいた林誠氏(当時大阪音楽大学教授)に再登場いただき、東西で本格的な合唱活動がスタートした。

主催演奏会(以下)のほか大阪では「箕面市合唱祭」に2009年から毎年参加、東京も東京男声合唱フェスティバルに参加をはじめ、林誠先生退官記念「林誠祭」など林先生主催にかかるイベントへの参加や他団体への賛助出演も多い。

- 2003年1月26日 第一回 大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団ミニコンサート
上田安子服飾専門学校 本館6F ライラックホール
黒人靈歌(3曲)、組曲「雨」、賛助出演(混声合唱団メルヴェイユ)混声合唱組曲「柳河風俗詩」
- 2004年2月1日 第二回 大阪外国語大学グリークラブ OB 合唱団ミニコンサート
上田安子服飾専門学校 本館6F ライラックホール
黒人靈歌(5曲)、組曲「月光とピエロ」、賛助出演 アンサンブル葉音「世界の歌より」3曲
- 2004年7月11日 佐原真さん追悼演奏会 大阪府立弥生文化博物館
黒人靈歌(数曲)、ドイツ歌曲(5曲)、組曲「雨」(林誠指揮)
- 2005年3月27日 第一回菜の花コンサート 淡路島・五色町 五色文化ホール
(阪神淡路大震災10周年記念事業) 五色サルビアエコー、五色中学校ブラスバンド部との合同演奏会。
Sea Shanties、ロシア民謡、組曲「月光とピエロ」(林誠指揮)、合同演奏「ふるさとの四季」「五色浜の子守歌」
- 2006年4月1日 グリークラブ OB会(東京)2006年演奏会 カスケードホール
モーツアルト「6つのソナタ」、黒人靈歌(5曲)、組曲「月光とピエロ」(小貫岩夫指揮)、
- 2006年4月30日 大阪外国語大学グリークラブ創部80周年記念演奏会
箕面市メイプルホール大ホール
組曲「5つの日本民謡」(小貫岩夫指揮)、モーツアルト「6つのノクターン」(林誠指揮)、
黒人靈歌(5曲)、組曲「月光とピエロ」(林誠指揮)、OB82名が参加
- 2007年4月7日 大阪外国語大学グリークラブ OB会(東京)2007年演奏会 カスケードホール
愛唱歌7曲(小貫岩夫指揮)など
- 2007年4月8日 姫路文学館コンサート 姫路文学館
黒人靈歌、ロシア民謡、唱歌メロディー「ふるさとの四季」、
山口慶四郎名誉教授特別講演「司馬遼太郎と大阪外国語大学」
- 2007年9月8日 「さよなら わが母校 大阪外大」に出演 大阪外国語大学 箕面キャンパス
- 2008年4月5日 グリークラブ OB会(東京)2008年演奏会 カスケードホール
黒人靈歌(5曲)、組曲「雨」、組曲「月光とピエロ」(小貫岩夫指揮)
- 2008年11月9日 「山に祈る」を唄う演奏会 兵庫県立芸術文化センター 中ホール
Ave verum Corpus、組曲「山に祈る」、シューベルト合唱曲6曲、「世界の川めぐり」(6曲)(林誠指揮)
- 2010年3月28日 菜の花コンサート(五色サルビアエコーとのジョイント) 淡路島洲本市 五色文化ホール
(洲本市元気のもと基金助成事業)=高田屋嘉兵衛翁・司馬遼太郎先生を偲んで=
黒人靈歌(6曲)、組曲「雨」(林誠指揮)、合同演奏「ゴンドラの歌」「波浮の港」
- 2010年4月11日 東西合同演奏会 in 東京 東京田町建築会館
組曲「雨」(小貫岩夫指揮)、黒人靈歌(5曲)、組曲「山に祈る」(小貫岩夫指揮)
- 2011年4月3日 第二回 姫路文学館コンサート =司馬遼太郎 没後15年追悼演奏会= 姫路文学館
黒人靈歌(6曲)、組曲「三つの俗歌」「日本民謡曲集より3曲」(林誠指揮)、
- 2011年11月13日 創部85周年・清水脩生誕100周年記念演奏会 神戸新聞松方ホール
黒人靈歌(6曲)、世界の愛唱歌(5曲)、日本民謡曲集より5曲、組曲「三つの俗歌」
「月光とピエロ」(林誠指揮)、OB55名参加
- 2012年5月20日 清水脩生誕100周年記念演奏会=100人で歌う男声合唱組曲『月光とピエロ』
銀座ヤマハホール (3団体賛助出演)
組曲「アイヌのウポポ」、組曲「月光とピエロ」(合同演奏)
- 2012年9月23日 男声合唱の響 名古屋演奏会 名古屋市中村文化小劇場
(やまなみグリークラブ=愛知教育大学男声合唱団OB=とのジョイントコンサート)
やまなみグリークラブ:一青窈の詩から3曲、大阪外大:黒人靈歌(2曲)、「学生王子」より3曲
合同演奏:組曲「柳河風俗詩」「月光とピエロ」(林誠指揮)
- 2014年5月18日 林誠先生退官記念「林誠祭」に参加 大阪音楽大学 カレッジオペラハウス
組曲「月光とピエロ」(林誠指揮) 70数名のOBが集結
- 2014年6月22日 創部88年記念「ベージュ色のコンサート」 クレオ大阪中央
組曲「アイヌのウポポ」(林誠指揮)、ミュージカル「学生王子」(5曲)、黒人靈歌(6曲)、
大阪男声合唱団との合同演奏で組曲「富士山」(林誠指揮)、OB56名参加
- 2014年11月2日 Autumn Joint Concert 文京学院大学仁愛ホール
=文教学院大学吹奏楽部・大阪男声合唱団とのジョイントコンサート=
黒人靈歌(5曲)(坂井美樹指揮)、大阪男声合唱団との合同演奏で組曲「富士山」、
「月光とピエロ」(林誠指揮)

【指揮者】林 誠

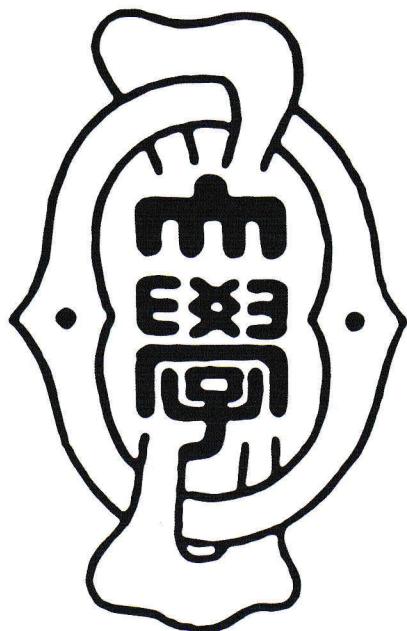
大阪音楽大学卒業、同大学院修了。71年日伊声楽コンコルソ・シエナ大賞、76年大阪文化祭賞、大阪府民劇場賞、音楽クリティック・クラブ賞、79年再び大阪文化祭賞を受賞。81年には、東京で創立100周年のために来日した小澤征爾指揮ボストン交響楽団の第九公演にソリストとして出演。82年東京、大阪でのリサイタルに対し、芸術選奨文部大臣新人賞を受賞。関西歌劇団常務理事、日本演奏家連盟会員、大阪音楽大学名誉教授。

1973年から大阪外国语大学グリークラブのボイストレーナーに就任。そのご縁でOB合唱団設立後の2003年から再び指揮、指導を仰いでいる。外大グリーとのお付き合いは通算38年にも及びます。

【出演メンバー】名前・卒業年度・語科

Top Tenor	Second Tenor	Baritone	Bass
西村信勝 S42S	若林允 S34C	河盛龍三 S34E	赤坂一郎 S35C
伊東昭廣 S42E	紙谷敬治 S35IN	柁山次雄 S35C	神田正見 S35C
石田康雄 S42IP	宇留野 隆 S37S	直場徳宥 S37S	村主寧民 S38D
板村哲也 S44S	西沢毅彦 S38T	大西昌三 S37S	三神 徹 S38S
柳楽行雄 S45S		山野善生 S38R	森 滋 S41A
佐藤謙司 S45S	鈴木惟司 S43S	新出武雄 S38S	後藤勇治 S41S
小竹正幸 S46R	柳沢長四郎 S45IN	小笠原 肇 S38S	梶江靖史 S44IN
山下 均 S49S	松岡一仁 S46E	西川哲郎 S40IN	大井耐三 S44S
上田哲也 S51R	加藤直樹 S48S	岸田勝昭 S42IN	真鍋一史 S45DM
片山誠也 S52IN	川崎博康 S49IP	浜崎慎吾 S44R	南 雄次 S46R
五十嵐 強 S54IP	池田民樹 S50M	鶴飼 茂 S46IN	八木哲夫 S48E
永谷 勉 S56IP	永山 隆 S58E	河島靖夫 S46P	樽井一仁 S50R
石原 守 S57E	梅垣 誠 S58E	佐伯博史 S53M	上崎雅也 S52S
内野秀樹 S57E	小林卓郎 S60R	岸本 保 S54C	新谷昭一 S54C
北村照夫 S57R	片山敦志 H06F	板倉正幸 S60IN	伊藤道彦 S55M
保川一治 S59M	山田道教 H07IP	栗生 昇 S60K	
中津孝司 S59R	山下輝夫 S 4 4 T	西山恭介 S61S	山口 伸 S59D
坂居孝二 S62F		松村尚人 S62S	田中貴義 H01R
戸田貴之 H04T			安良雄一 H01R
片瀬明広 S57 友		飯塚一雄 S44 友	山本邦博 H04J
* 友: 友情出演			
			松尾年展 H12V

A: アラビア語	C: 中国	D: ドイツ語	DM: デンマーク語
E: 英語	F: フランス語	IN: インドネシア語	IP: インド・パキスタン語
J: 日本語	K: 朝鮮語	M: モンゴル語	P: ベルシャ語
R: ロシア語	S: イスパニア語 (スペイン)	T: タイ語	V: ベトナム語



OB 合唱団 今後の予定

- 2016年12月3日(土) 創部90周年記念演奏会 東京公演
2017年5月28日(日) 箕面市合唱祭 出演
2017年7月 東京都合唱祭 出演
2017年8月27日(日) 大阪大学工業会 オペラ「魔笛」 合唱で出演
2017年11月 東京都男声合唱フェスティバル 出演
.....
2021年 創部95周年記念演奏会
そして 2026年 創部100周年記念演奏会